

‘のらぼう菜’優良系統の選抜

澁澤英城・小寺孝治・沼尻勝人・井川 茂*・秋間荘一*²(園芸部・*西多摩農業改良普及センター・*²J Aあきがわ)

【目的】

江戸時代から五日市地域で栽培されてきた‘のらぼう菜’は、今も春を感じさせる旬の野菜として喜ばれている。甘み豊富でおいしく、栄養価も高く、茹でてでも目減りが少ないことからファンも多い。また、端境期に収穫できる点や秋～初春栽培のため省農薬栽培が図れる点など栽培上の利点もあることから、これまで以上に期待される野菜である。現在、‘のらぼう菜’は生産者の自家採種により維持、生産、出荷されているため、花蕾茎の形態や食味など特性の異なる系統が混在し、品質が均一でない。そこで、さらなるブランド化をめざして品質の均一化を図るために、これまで各生産者が維持・選抜してきた系統を栽培し、その収量や品質を比較・評価する。

【試験方法】

供試した‘のらぼう菜’は農試選抜系統、生産者選抜の8系統および川崎市内産の2系統とした。播種は2001年8月30日、144穴セルトレイに行った。定植は9月25日に条間70cm、株間30cmで行った。施肥は元肥を10a当たり成分量でN:15kg, P₂O₅:15kg, K₂O:15kg, 追肥を10月25日にN:5kg, K₂O:5kg(培土実施), 1月20日にN:5kg, K₂O:5kg施用した。区制は1区27株の2連制とした。調査は各区10株とし、花蕾がみえた花茎を順次摘み取り、調査した。

【成果の概要】

1) ①は②から選抜した系統であるため外観的形質は非常に似ていた。越冬時の草丈は、川崎由来の⑩や⑪が高く、五日市選抜では⑤や⑥が高かった。そのぼらつきは⑪が大きかったが、他の系統は草丈以外の形質的な個体間差も小さく、良くそろっていた。主茎長は⑤と⑩が高く、葉数は⑩と⑪が10枚程度と少なく、①～⑨は13～16枚と多かった。分枝数は系統間に8本程度の差がみられた。葉色も系統間で差がみられた(表1)。

2) 出蕾が早かったのが⑩の2月中旬で、3月上旬には⑦, ⑧, ⑨, ⑪で出蕾がみられ、3月中旬には全ての系統で出蕾が始まった。収量は⑩が3.7t/10aと特に高く、他では2～3t/10aの範囲であり、収穫始めが早い系統ほど高い傾向であった。系統間で上物の花茎数は22～46本/株、花茎重は12～22g/本の幅があり、大差がみられた。品質および収穫労力を考慮すると花茎重の高いものが求められることから①, ②, ⑤, ⑦, ⑧, ⑨が有望であった(表1)。

3) ⑩は2月下旬に唯一収量を得られ、3月上旬がピークであった。⑧は3月上旬に500kg/10a程度の収量があり、五日市由来の系統では早生であった。次ぐ早生系統として⑦と⑨が続いた。その他は3月中旬から収量があり、この時期がピークであった(図1)。

4) 以上の結果、「‘のらぼう菜’らしさ」を含む現地検討会の評価を加味し、①, ②が最も有望な系統と評価できたが、花茎重の大きい⑤や最も早生な⑧等も捨てがたく、今後さらに検討する。

表1 ‘のらぼう菜’の生育・収量特性

番号	系統名	越冬期の生育					収穫 始め (月/日)	収量 (t/10a)	花茎 数 (本/株)	花茎 重 (g)	1次 生産者 分枝数 の評価		(順位)
		草丈 (cm)	主茎長 (cm)	葉数 (枚)	分枝数 (本)	葉色					太	小	
①	TN	50 ±2	11.4	14.1	6.8	47	3/14	2.3	26	19	16	4	2
②	TR	51 ±2	9.1	13.1	5.8	49	3/14	1.9	22	18	15	4	1
③	MA1	48 ±5	8.3	13.4	3.4	51	3/11	1.9	32	12	17	2	3
④	MA2	50 ±5	10.7	14.0	5.6	53	3/11	1.9	27	15	19	0	4
⑤	IC	53 ±3	19.4	14.1	6.0	50	3/11	2.0	23	18	13	1	7
⑥	SA	55 ±5	8.1	13.4	6.8	50	3/14	2.1	36	12	19	1	5
⑦	YA	51 ±6	7.2	14.5	7.1	45	3/7	2.3	24	21	15	2	10
⑧	IS	48 ±2	10.3	15.5	1.1	50	3/4	2.9	27	22	17	1	8
⑨	HA	47 ±5	8.8	13.6	5.0	52	3/7	2.8	30	20	19	1	5
⑩	C1	58 ±5	17.0	9.6	8.1	50	2/21	3.7	46	17	13	4	11
⑪	C2	68 ±10	7.8	10.6	0.5	47	3/7	2.2	25	18	12	3	9

越冬期の生育は2002年1月25日に調査した

葉数は主茎の葉数

葉色はSPAD値

側枝数は5cm以上の側枝数

4月9日部会員等13名が‘のらぼう菜’らしさや収量性を立毛審査した時の順位

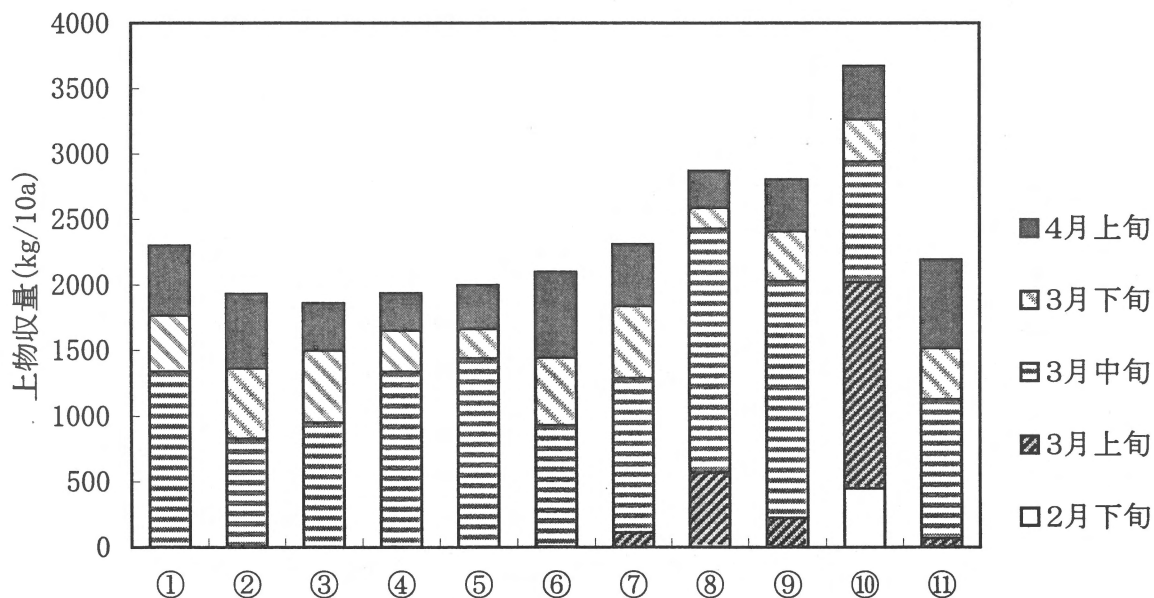


図1 ‘のらぼう菜’の旬別上物収量